

会議・視察報告

国際会議「北東アジア安全保障に関するウランバートル対話」の報告

ERINA 調査研究部主任研究員 新井洋史

モンゴル政府は、北東アジアの全ての国との良好な関係を維持していることから、地域の安全保障において独自の役割を果たそうとしている。その一環として、エルベクトルジ大統領の提唱により、2014年6月17日にウランバートル市において標記の国際会議が開催された。政府系シンクタンクのモンゴル戦略研究所が主催し、会場はモンゴル外務省内の大会議室が利用された。北東アジア6カ国のほか、欧米などからも含めて約40人が対話に参加したほか、多くの地元聴講者がいた。

会議は、セッション1「北東アジアの安全保障状況：傾向、課題及び機会(北東アジアの安全保障の全般的レビュー)」、セッション2「北東アジア安全保障問題に対応することを目的とした取組、域内に安全保障機構が存在しない理由」、セッション3「地域協力及び信頼の強化促進における経済、環境等の要素の役割」及びセッション4「将来展望：北東アジアにおける信頼醸成と緊密な地域協力を促進するために何をなすべきか」という4つのセッションから構成された。

以下では、当日の議論のうち、印象に残った点などを中心に紹介したい。まず、何人かの発言者が、北東アジアの安全保障の現状はおおむね良好であるとの見解を示していた点が興味深かった。確かに、世界各地で紛争が起きている状況では、世界全体の中で見れば、北東アジアの状況は比較的良いと言えるのかもしれない。他方、多くの発言者は、北東アジアの国々の間では相互不信が強まり、緊張が高まっていることを指摘していた。近年の状況を見れば、こういった評価の方がしっくりくる。会議の中では、信頼醸成の仕組みづくりが必要だとの提案もなされた。

各セッションの質疑応答の場面では、日中の参加者の中で尖閣諸島や軍備増強などの問題に関するやり取りが繰り返された。特に中国側の政府系シンクタンク関係者の発言は、原則論を繰り返し、議論がかみ合う状況ではなかった。こうした状況に対して、会議終了近くには、他の参加者か

ら、二国間関係を超越して多国間で考えることの必要性和難しさを指摘したり、問題点を指摘するよりも実績に着目して議論した方が建設的ではないかといった意見が出されたりしていた。

こうした観点から見て、最も建設的だったのは筆者も発言者の一人だった第3セッションだと思う。ゼロサムゲームを越えようとの意見や、エネルギー分野でのプロジェクトなどの経済分野での協力を進めることを提案する発言などが続いた。セッションモデレータは、取りまとめの中で、大図們江イニシアチブなどでの協力の進展が進んでいる実態を評価していた。

背景などがよくわからず、当日初めて聞いたテーマの発表も多くあったため、重要な論点を見落としているかもしれないし、会議の趣旨を十分に理解できたとは言えないかもしれない。ただ、普段参加している経済関係、あるいは運輸やエネルギーといった実務的な個別分野の会議とは違う趣で大いに刺激を受けた。1日の会議を終えて、かなり疲れを感じたものの、同時に、経済面での協力が地域の安全保障の向上に建設的な役割を果たしうるのではないかという思いを強くした。今後は、こうした視点を持ちながら様々なテーマに取り組んでいきたい。



筆者撮影